

## 第3回国立市中小企業等振興会議 要点記録

- ◇ 日時：平成21年10月26日（月） 午後3時00分～5時00分
- ◇ 会場：市役所3階第2会議室
- ◇ 出席者：
  - ・ 国立市中小企業等振興会議委員 13名 欠席 2名
  - ・ 事務局 3名
- ◇ 配布資料
  - ①資料1 中小企業等振興会議のグランドデザイン
  - ②資料2 (仮) 中小企業等振興会議施策一覧表
  - ③資料3 第2回中小企業等振興会議録
  - ④資料4 東京都・警視庁からのパンフレット（道路交通規則の改正に伴うパンフレット）
- ◇ 要点記録

- ・ 課長 第3回中小企業等振興会議の開催について
- ・ 会長 あいさつ
- ・ 事務局 配布物の確認
- ・ 会長 本日の議題の進め方について説明
  - 市からの資料に基づく説明
  - 質疑応答

会 長：今日は、会議の役割と進め方をやっています。

それでは、前回の国立市中小企業等振興会議において、宿題となっていた中小企業等振興会議の位置づけ及び役割について（事務局）課長から説明していただきます。

事務局：会議での意見を聞きっぱなしにならないよう反映していきたいと考えていますが、要綱の改正を含め、もう少し時間をいただきたい。

会 長：どうフィードバックするか、要綱に加えるかどうかは、もう少し時間が必要とのことですので、引き続きお願いします。では、資料の説明をしていただきます。資料が出来たことは、大きな前進と思います。

事務局：それでは、資料No.1のグランドデザインを説明します。

- ・ 市の基本構想について（第4期の基本構想の説明）

第4期基本構想は、2006年から2016年までで10年間を見据えたもの。

基本構想では、くにたちの将来像が策定されており、将来像を実現するための4つの視点があります。その中で産業振興としては、「まちをつかう」という視点からいろいろな事業を実施しているところです。

「まちをつかう」の施策としては

- いきいきとした産業のあるまちを目標に、商工業基盤の整備、魅力ある商店街の形成、中小企業の体質強化を推進していく、としております。

商工業の基盤整備としては、産業振興会議の設置について、すでに達成しています。また、産業振興に関する条例の制定も平成18年9月に基本条例を制定しております。魅力ある商店街の形成については、モデル事業として実施したKF（くにたち富士見台

人間環境キーステーション)があります。これからも次のモデル事業が必要と考えていますので、ぜひご提案いただければと思います。異業種交流については、まだ実施されておりません。達成できていない状況です。

都市農業では、農のあるまちとしてのブランド化について、ほうれん草うどん、小松菜うどんだけでなく、環境保全型農業を目指していきたいと国立は考えています。それがブランドになることだと。また、体験型市民農園で勉強してきた方が農家を手伝うことや、地場野菜の直売、給食センターの受給率を高めていくことを進めていきたいと考えています。

会 長：ここで、ご意見をいただきたいと思います。中小企業振興をどう位置づけていくか。

委 員：農業と商工業と分けて考えるのは難しい。農も商も同時に考えたほうが良いと思います。マーケットを考えて一体化した方が良いと。

事務局：産業という意味では、ひとくくりと認識しています。

会 長：基本計画は来年までですか。

事務局：2015年までです。第一次基本計画は5年スパンです。

委 員：観光と労働行政が一緒になっていますが、別なのでは？  
分けて考えることは可能ですか？

事務局：観光も労働行政も現在、産業振興課で担っています。労働行政では、以前「パートタイマーで働くあなたに」を印刷してきましたが、現在は「ポケット労働法」を印刷しています。また、観光は観光マップを頂いたものを配布しているだけの状態です。両者はリンクしていませんので、分けて考えても結構です。

副会長：労働行政が中小企業振興とどのように絡むのですか。

事務局：労働行政は、働ける場所を確保していくことであると考えられるので、一つの市でというより都・国という範囲でとらえるべき。

委 員：限られた職員数で、労働まではやりきれないのではないのでしょうか。

委 員：2006年に構想ができたとすれば、駅の問題がこの中に入ってきててもよいと思うのですがこの基本構想はどのようになっているのか、問題が別々になっているようで、どこでまとまるのだろうかと思います。

副会長：ベースである基本構想はここで議論しても解決できません。駅の協議会では労働行政などは議題にも上がっていません。基本構想を策定した時の考えが違うのではないのでしょうか。

委 員：第4期の基本構想で実現したものはありますか。

事務局：産業振興の中で実現したものはあります。条例と会議ができました。

委 員：条例ができてても実現できなければしょうがないと思います。現実的に農家で生きていくのは厳しい。米を作っても採算がとれなければ、現実味がありません。

会 長：中小企業の振興で文面を作成しても実現は厳しい。基本構想は市の中で最初に作られており、どうなっていたのかを押さえておきたかったのですが、矛盾がみえてきたということですね。基本構想自体は今変えられないので次回に作成する時はよく考えて作らなければいけないですね。

委 員：第二次計画は2011年からだと思われませんが、どのように考えられていますか。スケジュールはどうなっていますか。縦割りの形こそ改善してほしいです。

事務局：手順まではまだ分かりませんが、駅前がリメイクされれば、また変わると思います。今後12月に基本計画ができるのでその中に駅前も出てくると思います。

委員：議会が動かない状態ですね。皆でバックアップしていきましょう。

事務局：施策一覧表の説明

お気付きの点があれば指摘していただきたいと思います。

委員：資料の狙いは、施策全体がわからないと局部的にいきすぎてしまうので、施策全体がわかるようにしたいということです。今後、他市の状況も資料に入れていきたい。他の市ではとりくんでいるが、国立市では取り組んでいない、欠けている点に分かる資料にしたい。カテゴリ分けも不十分なので皆の意見を集約して地図のようなものになればいいと考えています。

会長：必要であるにも拘わらず何もしていない所が見つかるチェックシートの役割をはたしているのではないかと思います。

委員：経営支援については低金利で市の融資制度が、販売は多摩物産展がありNHKに取り上げられる規模になっています。

委員：イベントと観光資源の項目のロケーションボックスは、市に財源的な面の動きはないのですか。

事務局：市のPRになるので、担当は考えていると思います。

委員：観光資源になっているので市のプラスになるよう取り組んだほうがよいのでは。

委員：国立が宣伝になるのなら力をいれて良いのではないのでしょうか。

委員：国立は住みやすい街No. 1だったこともあるので、PRしないのはもったいない。

委員：住みやすい街No. 1は北だけだと思います。環境資源として大学通りの魅力は充分わかるが南部はどうか。南部にはハケの緑や用水があるが、府中用水は老朽化してきて、整備が必要になってきています。補修は個人がやっている状態で、道路整備などした場合、用水は必要とされなくなってしまう。用水を市民全体で守っていけるようにすれば観光資源になると思います。

委員：南部はまさに資源だと思います。もっと大切な資源として活用できる手立てを考える必要があります。ホテルができればかなりの資源になります。

委員：実際にホテルが出ているところもあるようです。

委員：PTAで子供を連れていって歩いたりできるのでは。用水を観光資源と結びつけていけば、国立の農業のあるべき姿になっていくと思います。

委員：国立駅ロータリーで農産物を直売するなどの構想も出ているようで、南部は魅力の核になっていく。ただ、暮らしにくさを行政に伝えても進まない。用水やハケの残し方を考えていければ良いと思います。

委員：南部地区は20号線も通って年々開発されてきています。市民の意見も聞かないと乱開発されてしまいます。ラブホテルや倉庫が増えてきて環境的には悪化。農地が荒らされて農業ができにくくなってきています。区画整理についても管理ができていないところがあり、南部地区に対してもしっかりと計画をたてて考えてほしいです。

副会長：観光資源と地産地消を絡めて考えていければ。野菜を売る場所がないという仕組みを変えたい。顔が見える人の食品を買いたいという消費者の意見もある。行政へのお願いとして

21世紀型の新しいものに取り組むようにしてほしい。

委員：農家は行政の補助がないし、後継ぎがいなくなっています。市が盛り立ててほしい。相続時に税金を払うために土地を売り、農業を続けている。

委員：国の施策で小さい農家はやっていけなくなっている。もっと南部地域を注目してもらいたい。

会長：南部の農業について、計画は産業振興課長が詳しいと思いますが。

事務局：次回、国立市第2次農業振興計画をお持ちします。農業は文化なのです。市民でお手伝いしたいという人もいますので、来年以降産業としての農業計画をすすめていきたいと思えます。（※国立市第2次農業振興計画は会議終了後、配布）

委員：農家以外の人をいかに農業に取り込んでいくのが課題。農業従事者300人弱、農家戸数140戸です。

副会長：認識をして施策を考えていくべきだと思います。

委員：農業塾で卒業した人が集まっているなら不耕作地、放棄地の提供があるのか。農政策の一つとして取り上げれば良いと思います。

委員：上記の件は行政が取り上げてくれるのがいいのでは。

副会長：生産されたものをいかに販売できるか。農商連携の課題ができたのが良かったのではないのでしょうか。

会長：それでは、今回は来年2月ということになります。本日はこれで終了いたします。